

白川わくわくランド寺子屋

わくわくお天気教室

夏休みが始まってのすぐの7月24日(木)に、わくわくランドでお天気教室を行いました。対象は小学4年生以上、講師は気象庁熊本地方気象台の方々。

オーロラなどの映像をまじえた南極観測の貴重なお話、雨粒の落ちるときの形や竜巻の実験、風向・気温の測り方など盛りだくさんでした。

夏休みの自由研究のヒントももらえ、実験も体験でき有意義な学習ができました。

8月の来館者

1,661名!

今年の夏は、例年になく雨の多い年でした。夏休みの前は冷夏で、後半やっと熊本の夏らしい夏になりました。そんな中、白川わくわくランドは、夏休み中子どもたちでにぎわいました。また、九月六日(土)、七日(日)は、子ども川の安全教室イン白川で夏を満喫しました。この夏行われた白川わくわくランド寺子屋やイベントを一部紹介します。

「へええ! 雨粒ってこんな形で落ちてくるのか!!」



雨粒の落ちるときの形は?

- 1 球
 - 2 餅の形
 - 3 しずくの形
- のどれでしょう?



夏の日の気温変化は...

子ども川の安全教室in白川

(主催: NPO法人白川わんぱく探検隊)

9月6・7日に、「川を知り自然と安全を学ぼう! 君は川のリーダーになれるか!」をコンセプトに実施された川の安全教室。1泊2日の教室は、子どもたちをすっかり川ガキに変えました。写真で教室の様子を追ってみます。

9月6日



①

自然・水・川などについて学習 (わくわくランド内で流れる水の働き)



②

テント設置 (熊大工学部裏の河川敷で)



③

泳ぐ・水切り・カヌーなど白川で



④

夕食の材料を買いに子飼商店街へ。「このピーマンどう?」

9月7日



①

段ボールを使った手作りカヌーに挑戦。



②

できたぞ!

みんなでゴミ拾いをして教室終了!!

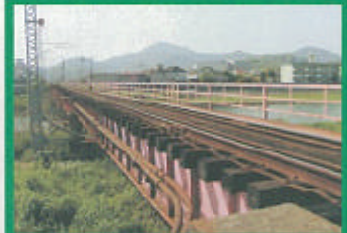
白川わくわくランド ニュース

第11号

発行

●白川流域住民交流センター (白川わくわくランド) 〒860-0854
 熊本市東子飼町8-55
 TEL/FAX(096)346-5454
 ホームページアドレス <http://www.wakwaku-land.com>
 メールアドレス wakwaku@wakwaku-land.com

白川の橋 ⑦ 第一白川橋梁



河口より9.5km地点にある。熊本駅を始発とするJR豊肥本線が、まず渡る橋梁である。本線は、白川の左岸の平成駅・水前寺駅などを経て、再び小碓橋上流の白川第二橋梁で右岸側を走る。

橋長122.12mで大正3年に完成している。昭和28年の6・26水害では決壊は免れているが、「豊肥線蓮台寺橋鉄橋右岸の堤防が決壊」(白川水害50年 熊日出版の記録がある。

現在、橋長を広げたり、橋桁を高くしたりなどのため架け替えが計画されている。

●●● 教職員 13年目研修 ●●●

白川わくわくランド で研修!!

ここはその名の通り、「わくわく」した気持ちにさせてくれる所である。家庭だけではできないたくさんの体験型イベントが企画されているし、何より3人の施設の方が笑顔で親切に迎えて下さるからだ。リバースクールで白川に入り、この何年間かでも浄化されるものかとびっくりさせられた。これは、こういう施設やリバープールができたおかげだと思う。

ところで、「川」という素材にはいろいろなモジュール(単元)が隠されており、地域の歴史や自然、くらしを学習する好材料だと考えている。保全しようという気持ちは、自然に触れ合うことから始まると思うが、今回「安全」についての講習を受け、自然とのきちんとした付き合い方を学んだことは、今後、環境学習を教えていく上では、大収穫であった。教育現場で生かしていきたい。たった5日間だったが、学ぶことが多かった。また、今後は生徒と来たい。

熊本市立錦ヶ丘中学校 西澤 悦子 先生

熊本市の教員委員会が行っている教職員13年目研修の社会体験研修は、その研修成果を学校教育へ還元し活用していくもの。
今年はその研修場所として、白川流域住民交流センター(白川わくわくランド)を選ばれた先生や放送局研修で本センターを取材の場所に選ばれた先生がおられました。
わくわくランド(寺子屋やリバースクールなど)で賑わったこの時期、白川に飛び込んだり水遊びの相まをしたり、インタビューをしたり白頃はまた違った世界を体験されたと思います。

現在、完全学校週5日制の導入や学校教育法・社会教育法の改正等により、学校や地域において子どもたちの体験活動を充実させることが求められています。

私は、夏休み期間中のある日、社会体験研修の一環で「白川わくわくランド」を訪問する機会を得ました。ちょうどその日は、「白川リバースクール」が開催され、子どもたちの体験活動の様子もあわせて見学することができました。

「白川わくわくランド」では、河川を中心とした様々な体験活動を組織的・継続的に展開されていました。わくわくランドを中心に、子どもたちの体験活動をサポートする人々のネットワークが構築され、子どもたちが河川を身近に感じ、大切にしようとする心を育んだり、活動に携わっている人々の生き方を学んでいました。学校でも体験活動の充実さらに取り組んでいこうと決意を新たにしました。

熊本市立春日小学校 井手 道信 先生

「有明海」をテーマのわくわく塾

報告1

有明海は日本最大級の干潟を持っています。干潟は、長い年月にわたり川や海の働きによって砂や泥が堆積した場所で、そこには多種多様な生き物が棲んでいます。日本では昔から少しずつ干拓を行い、干潟を人間の生活の場にかえてきました。しかし、戦後は、大規模な工事で、1945年から1992年の間に日本の干潟の40%を消失したといわれています。その後も有明海内の諫早湾干拓などが行われ、人間の生活権と地球環境の面からおおきな課題がなげかけられています。

有明海の干潟と沖合の生態系の異変

今回は、有明海の現状を明・暗2つのニュースを例に取りながらお話された。

1つはアサリ再生に向けて明るい兆しが見えてきたこと。有明海では30年前までは大量のアサリが水揚げされた。しかし、このところほとんど採れていなかった。アサリの稚貝が干潟に定着できず死んでしまっていたそうだ。そこで、海中の砂を採取し干潟にまいたところ、そこに稚貝の定着が見られ大きく育ったということであった。一時期川砂の採取が多量にされた時期があったが、それも現在は禁止されており、川砂の干潟への流出も効果を奏すものと思われるとのことであった。

2つ目は有明海の赤潮発生について。この影響の1つにノリの色落ちの問題が、この数年報道されてきた。この赤潮発生

講師 熊本県立大学 環境共生学部教授 堤 裕昭 氏

には、有明海の海水の流入が大きい関係しているということであった。長年による有明海の詳細な水質調査や、諫早湾潮受堤防が短期間だったが開門された時なされたヘリコプターによる潮目調査などから、次のような結論を出されている。「諫早湾から引き潮時に流出する海水の量が制限されればされるほど、有明海最奥部の表層水は停滞し、大規模な赤潮が発生しやすくなる。したがって、諫早湾の潮受け堤防を撤去するか、水門を開放状態にするか、ある程度現状より開門するか、程度の差はあれ、いずれにしても諫早湾への海水の入退潮を現状よりいくらかでも回復させないと、大規模な赤潮は続き、有明海の生態系は攪乱されるづける」ということであった。

新刊紹介

「6.26白川水害50年」

【発行】 熊本日日新聞社
【内容】 昭和28年6月の大雨
ドキュメント6.26水害
・白川と流域の姿
・6.26以前の大水害など



白川わくわくランド駐車場



大型バスOK!!



秋の星座観察会

十五夜を観察しよう!!



日時 平成15年10月10日(金)
18:30~20:30

募集人数 50名(年齢制限なし)
参加費 100円(保険代)

*パソコンを使って、立体映像の
月のお話の後、月の観察。

主催 白川わくわくランド



~秋の阿蘇谷に行く~

阿蘇谷を巡り、自然と地域の
人々の かかわりを学ぶ!

日時 平成15年10月11日(土)
9:30~16:30

募集人数 30名(高校生以上)
参加費 1,000円(昼食、保険代)

(見学場所) 黒川遊水地、移入魚の碑、
国造神社、おごもり花公園など

主催 白川わくわくランド

白川わくわくランド秋からの 寺子屋案内

お問い合わせ・お申し込み先

白川わくわくランド

TEL・FAX 096-346-5454

<http://www.wakuwaku-land.com>

wakuwaku@wakuwaku-land.com

水紀行・水源地巡り

阿蘇の豊かな水に親しみ、
自然の恵みに触れる!

日時 平成15年11月8日(土)
9:30~16:30

募集人数 30名(中学生以上)
参加費 1,000円(昼食、保険代)

塩井社水源、高森湧水トンネル
公園など、湧水地を予定。

主催 白川わくわくランド

秋の白川リバーズクール

~リバーツーリング・秋の白川の
自然を満喫しよう!~

①清流コース 10月26日(日)・11月2日(日)

②急流コース 11月9日(日)・11月16日(日)

①清流コース 小学生以上 15名
(3年生以下は親子参加)

②急流コース 小学4年生以上 10名

費用 中学生まで2,500円
高校生以上3,000円

主催 白川わんぱく探検隊